

第3章 理念ごとの計画

第3節 未 来

～子どもや若者が未来に対して夢や希望を持てるまち～

人口減少と少子高齢化社会への対応

【施策】 人口流入を促進し 定住できる環境を整備する

社会背景

人口減少問題は一部の都市以外においては、集落の崩壊、保育所・小学校の統廃合、遊休荒廃農地の増加などが危惧され、重要な課題となりつつあります。人口流出の一つの要因としては、大学等への進学、都市部等での就職、住宅を持つにあたっての転出が主であり、雇用の問題と住む場としての魅力が複合的に相関しています。

若い世代、特にこれから子育てを行おうとする家族の定住を促すためには、一定のパイを各地域で奪い合う地域間競争の観点から、隣市町との対立軸で考える必要がありますが、同時に都市部との対立軸においては、近隣市町との協働を考える必要があります。

町の現状と課題

池田町では、平成17年度に初めて死亡が出生を上回りましたが、平成20年度に諸施策により若い世代の転入等で出生が上回り、緩やかではありますが人口増で推移しています。

そこで、行政と住民との協働事業の推進など、町内での多様な就業機会が拡充される取組等、若年者への支援などが求められています。

池田山の緑や身近なまちの緑を守り、豊かな自然環境を保全し、子育て支援対策や教育環境を充実させ、子育て世代が「池田に住んでみたい、住みやすい、住み続けたい」と思えるまちづくりに取り組んでいくことが必要です。一方、既成市街地では高齢化が進むと推測され、それに対応した、高齢者がいきいきと生活できる、新しい環境づくりが求められています。

池田温泉、道の駅など緑豊かな地域資源を活用し、まちの魅力を高めることが、住民の定着、若い世代の流入を促し、安定した人口規模のまちとして都市基盤を維持することにつながります。それとともに、地域人材・財源の確保、また新たな地域資源の創造も必要となります。

施策の体系

人口流入を促進し、
定住できる環境を
整備する

良好な住宅・宅地の供給、誘導をする

〈主な事業〉 少子高齢化に対応した住宅・住環境整備事業

雇用・就労支援を充実する

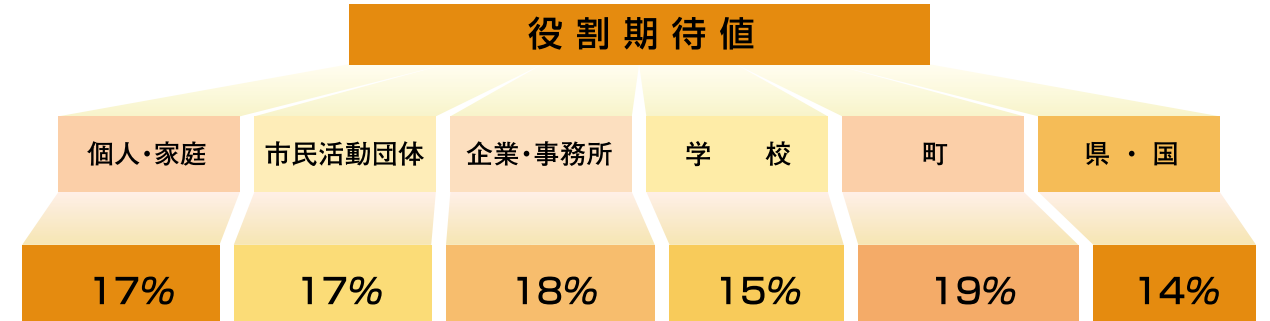
〈主な事業〉 高齢者・若年者・障がい者等の就業支援事業
高付加価値力をもつ研究開発型企業の誘致促進事業

めざすまちの姿

人々の流入が進み、継続して 池田町に定住している

まちづくり指標	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
世帯数	7,349世帯	7,528世帯	7,605世帯
池田町民になって10年以上経っている人	17,546人	※	※
住み続けてよかったと思っている人の割合	※	※	※

※値が把握できた段階で進行管理します。



町民や各種団体などができること

- 町民は、町外者の視点を取り入れつつ、池田町の良さを押し出した地域イメージが創出・演出されるようなまちづくりを考えることができます。
- 中高年世代の町民は、青年あるいは若者グループが取り組むイベントやまちづくり等に対しては、黙って温かく見守ることも、積極的に支援することもできます。



(町民参加推進会議で考えたこと)

地方分権・地域主権と住民自治の進展

【施策】 子どもの健やかな成長を支える 地域づくりを推進する

社会背景

核家族化や地域のつながりの希薄化等に伴い、家庭や地域における子育て力が低下するなど、子どもたちを取り巻く環境は益々厳しいものとなっています。隣近所の子どもたちの名前ですら知らないということも起こっています。親も子も、同じ地域に暮らす町民として笑顔と声を交わせるような地域づくりが必要です。

町の現状と課題

子どもたちが様々な地域活動に自主的、自発的に参加して、多くの人々と交流を深めることや社会奉仕を通じて勤労の意義と喜びを体験することなどは、豊かな人間性や判断力、社会を形成する力を培ううえで大切なことです。各地域で多世代ふれあいの場づくりとして、花壇づくり、歩け歩け運動などを実施しており、また、敬老会には手作りのプレゼントなどをして楽しく交流をしています。

校区運動会では中学生が主となり、積極的に運動会を盛り上げていますが、一部の活動の広がりではないので、各地域でのクリーン活動、スポーツ大会、祭り等に積極的に参加し、地域の結びつきを深めることは明るい健康なまちづくりを進めていく上で重要です。

施策の体系

子どもの健やかな成長を支える地域づくりを推進する

子どもたちが家族ぐるみで楽しく参加できる場や機会を充実する

〈主な事業〉子ども会活動推進事業、生涯学習活動推進事業

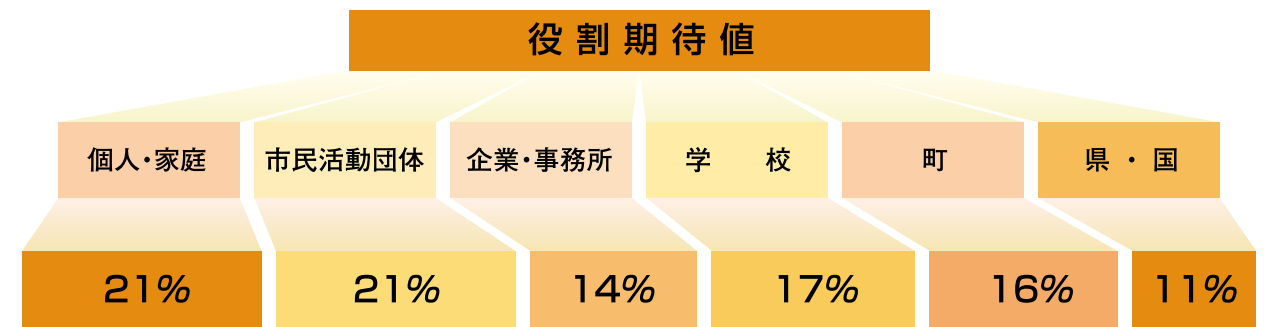
子どもと家族に対する支援のための連携体制を整備する

〈主な事業〉子どもたちを地域で育む事業

めざすまちの姿

地域ぐるみで子どもたちが楽しみ 活気づく取り組みや行事がある

まちづくり指標	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
地域の行事の数	540回	565回	586回
地域の行事に積極的に参加していると思っている人の割合	39.7%	44.5%	49.4%
地域のイベントが楽しいと思っている子ども（小中学生）の割合	74.6%	79.2%	82.1%



町民や各種団体などができること

- 地域の親子ふれあい活動では、自然に親しんだり、モノづくりをする経験を補えるような活動をすることができます。



(町民参加推進会議で考えたこと)

人づくりと教育環境の充実

【施策】 子どもの学ぶ喜びを育み、生きる力を養う

社会背景

子どもは、自我が芽生え、生活の場や他者との関係が広がると、興味・関心を抱く対象もどんどん広がり始めます。興味・関心の幅は、機会を提供することにより、好奇心や探究心を満足させながらさらに拡大し、豊かな感性と学ぶ意欲の基盤を形成します。

町の現状と課題

池田町では、小学生を対象に夏休み学習会・通学合宿などを行っています。学習会では、学ぶ喜びを感じとり、合宿においては、共同生活の中でのルールを知り、自立心を育てると同時に、協力しあう気持ちを学んでいます。また、小・中学生が子ども議員となり、子ども議会を開催しています。行政の仕組みを理解しながら、将来の池田町のあるべき姿は、自分たちの手で作っていくんだという意識を育てています。子どもにとって、教育を提供する場の影響は非常に大きいと考えられます。子どもたちが楽しく学ぶために、教育内容の充実はもちろんのこと、集団生活の中で、子ども自らが考え、判断し、行動できる自主性を重視した場所づくりが行われるよう、保護者や地域住民とともに考えていく必要があります。

施策の体系

子どもの学ぶ喜びを育み、生きる力を養う

子どもが自発的にやりたいことができる環境を整備する

〈主な事業〉 体験学習推進事業、通学合宿事業

子どもが異文化に触れる機会を確保する

〈主な事業〉 中学生海外派遣事業、夏期講習交流文化事業

地域に愛着や誇りを持てる子どもを育成する

〈主な事業〉 子ども議会開催事業、池田町再発見推進事業

学校給食を教材とした食育を推進する

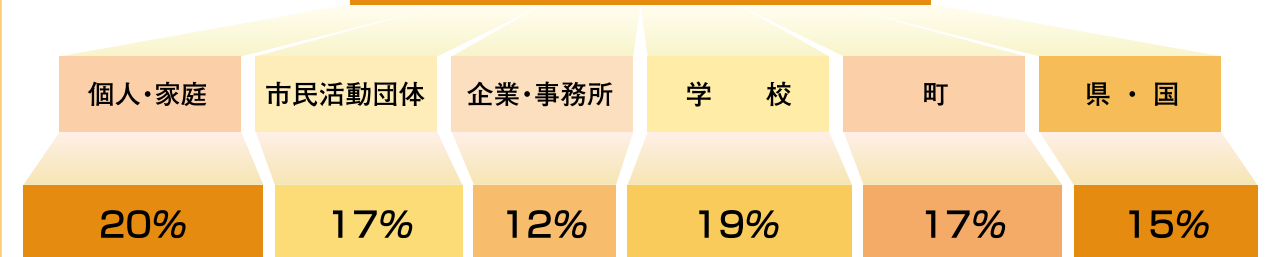
〈主な事業〉 学校給食センター改築事業

めざすまちの姿

子どもが将来の夢や目標を持ち、意欲的である

まちづくり指標	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
身近で目標とする大人がいると思っている子ども（小中学生）の割合	61.3%	67.2%	72.7%
将来の夢につながる進路志望を持っている子ども（小中学生）の割合	58.5%	64.7%	70.8%
学校以外で楽しい活動ができていると思っている子ども（小中学生）の割合	91.6%	94.1%	95.6%

役割期待値



町民や各種団体などができること

- 家庭や親は、自分の生き方を子どもに伝えることができ、自らの生きる姿を見せることができます。
- 池田町で生まれ育った大人は、子どもに地元の歴史や文化や伝統行事などを伝えることができます。
- 若者は、子どもたちに、池田町の伝統行事やおまつりを楽しみ、参加している姿を見せることができます。
- 子どもたちは、将来の夢や目標に向かって、何事にもとらわれない心と勇気で行動すれば、一人ひとりの能力や生活環境にあった教育を受けることができます。
- 保護者は、子どもに意欲的な生活習慣を身につけさせ、あるいは子どもの行動を恥ずかしいからと抑え込まなければ、夢や目標につなげられるよう応援することができます。



(町民参加推進会議で考えたこと)

人づくりと教育環境の充実

【施策】 青少年を育む地域づくりを推進する

社会背景

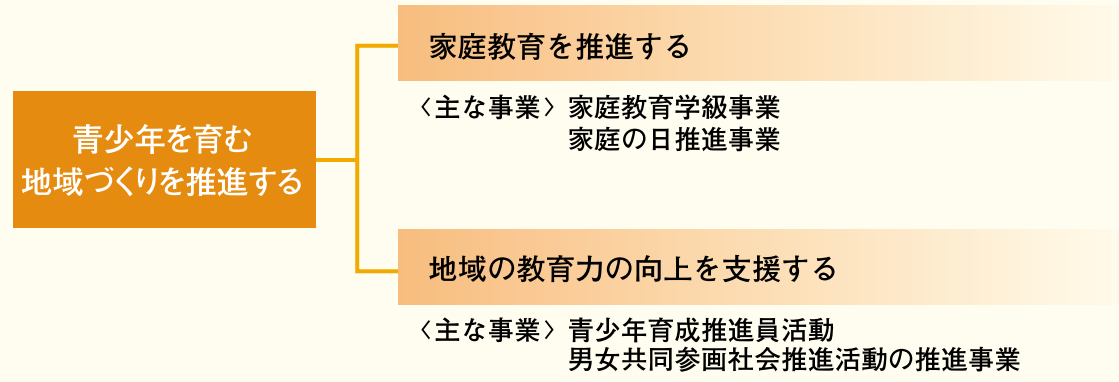
子どもは、身体や学力のみならず人格も育っていきます。子どもが社会全般の規範意識（モラル）を持つためには、周囲の大人がモラルを持った言動を示すことが必要です。家庭や地域社会が子どもの育ちをどう援助していくかが問われています。

町の現状と課題

近年、青少年の非行や犯罪は多発・凶悪化の傾向にあり、揖斐警察署管内における平成20年度の少年検挙・補導状況を見ても、安心できない状況にあります。青少年の健全育成のため、町民会議、家庭教育、少年補導などの事業を実施していますが、これらの活動を通して、早い段階から青少年の規範意識を高めるよう、啓発していく必要があります。

青少年の生活基盤である家庭は、最も強い影響を及ぼす場です。家庭が自覚を持って青少年を健全に育てるよう、また、地域がそれをサポートできるよう周辺環境を整える必要があり、地域そのものの規範意識が高まるように啓発することも重要です。

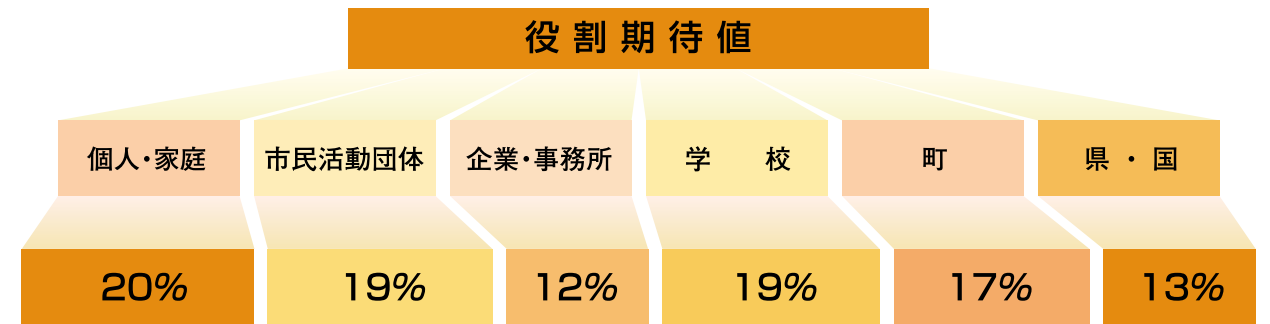
施策の体系



めざすまちの姿

大人と子どものふれあいがあり 子どもにモラルがある

まちづくり指標	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
子どもに声かけやあいさつをしている人の割合	73.8%	76.7%	83.8%
地域の子どもの注意をしたことがある人の割合	50.3%	54.4%	61.5%
家庭で子どもとモラルについて話し合っている人の割合	75.4%	79.3%	87.3%
地域の人に叱られたことがある子ども(小中学生)の割合	46.3%	53.1%	59.4%



町民や各種団体などができること

- 地域の大人は、地域コミュニティの再構築を、きめ細かなきっかけや機会を通じて、率先して取り組むことができます。
- 大人は、道徳心を心得て、子どもに率先して実践してみせることができます。一方で、大人が疲れていたり、弱いところもあるということ子どもに見せる必要もあります。



(町民参加推進会議で考えたこと)

人づくりと教育環境の充実

【施策】勉強やスポーツに打ち込める教育環境を充実する

社会背景

一人ひとりの個性や特性に寄り添った形で、勉強やスポーツに打ち込むことは、充実感を持てる日々を過ごすために大切です。そういった教育環境を維持するためには、様々な方面からサポートしていくことが求められます。

町の現状と課題

教育において現在ソフト面では、少人数学級や英語活動支援員、ほほえみ・心の相談員、特別支援学級支援員、特別支援教育アシスタントを各学校に配置し、教育相談員による相談、いちご教育相談^{※1}を開催し保護者・児童・生徒の支援を行っています。図書館では児童読書推進のため、小学校・保育園との連携を図り、園児送迎バスの運行やよみきかせなど、児童サービスを積極的に行っています。また、総合型地域スポーツクラブ活動や公民館社会体育活動等への参画も促進しています。

ハード面では、各施設の整備・維持・補修を行い、きめ細やかに対応できる教育環境を充実していくことが必要です。

施策の体系

勉強やスポーツに打ち込める教育環境を充実する

適切な教育環境の整備に努める

〈主な事業〉 少人数学級支援事業
学校教育施設維持管理補修事業

一人ひとりの個性に合わせた教育ができる体制づくりに努める

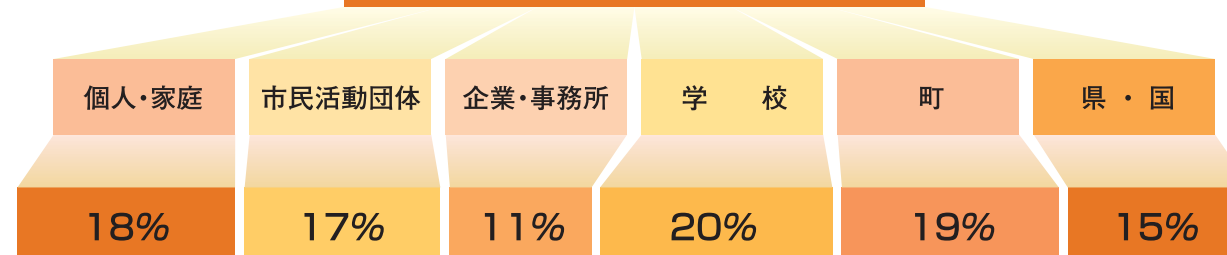
〈主な事業〉 特別支援教育支援事業
総合型地域スポーツクラブ事業

めざすまちの姿

教育環境が整っていて勉強やスポーツに打ち込める

まちづくり指標	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
池田町図書館を利用している子ども(12歳以下)の数	27,000人	32,022人	32,157人
池田町総合体育館を利用している子ども(18歳以下)の数	24,000人	25,667人	28,822人
給食がおいしいと思っている子ども(小中学生)の割合	83.6%	86.2%	88.6%
信頼できる指導者がいると思っている子ども(小中学生)の割合	74.6%	78.5%	80.9%

役割期待値



町民や各種団体などができること

- 町民は、自分たち自身が主体的に、スポーツやレクリエーション活動を行うことで、子どもたちに楽しさを伝え、親しんでもらえるようにすることができます。
- 障がいをもつ子どもたちは、十分な施設・設備が整えられることにより、障がいの状態にあった教育が受けられます。



(町民参加推進会議で考えたこと)



※1 発達に心配のある子どもの教育についての相談を受けたり、助言を行う窓口（早期教育相談）。